

監修 東海大学医学部健康管理学非常勤教授 本間 康彦  
ひらつか生活習慣病透析クリニック院長

# もっとよく知ろう がん検診

がん検診は、身体にがんがあるかどうかを調べる検査。

年に1回の定期健診は受けていても、

がん検診は受けていないという人が多いようです。

その目的や効果をよく理解して、

次の機会から受診するようにしましょう。



異常あり  
異常なし

精密検査(二次検診)

「がんと診断」

「異常なし」または「良性の病変」

医療機関で治療へ

次回の検診



## がん検診のメリット・デメリット

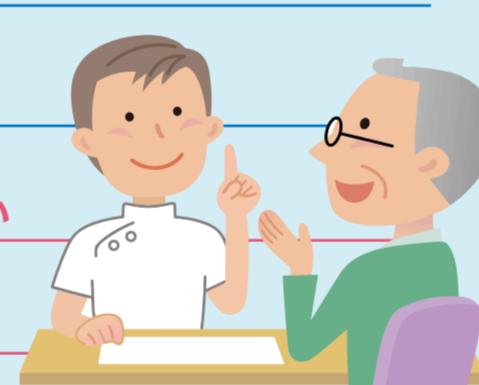
検査の目的は、無症状のうちにがんを発見し、適切な治療を行い、がんによる死亡を減少させること。ただし、メリットだけでなく、デメリットもあるので正しい知識を持つことが大切です。

**メリット 1** 早期発見・早期治療により、がんによる死亡リスクを軽減

**メリット 2** 早期のがんを発見でき、早期治療による身体的・経済的負担が比較的軽くすむ

**メリット 3** がんになる前の病変が見つかることがあります、防止にも役立つ

**メリット 4** 「異常なし」なら、安心して生活が続けられる



**デメリット 1** がん検診の判定・診断が100%正しいわけではない

**デメリット 2** 検査によって身体に負担がかかってしまうことがある

## がん検診の種類

国の指針では、がんの死亡率を減少させるため、5つのがん検診(胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん)を、科学的に効果が明らかな検診方法、対象年齢、受診間隔で実施することとしています。

種類	対象者	受診間隔	検査項目
胃がん	50歳以上 <sup>(※1)</sup>	2年に1回 <sup>(※2)</sup>	問診+上部消化管エックス線検査または上部消化管内視鏡検査のいずれか
肺がん	40歳以上	年1回	問診+胸部エックス線検査および喀痰細胞診
大腸がん	40歳以上	年1回	問診および便潜血検査
子宮頸がん	20歳以上	2年に1回	問診+視診+子宮頸部の細胞診および内診
乳がん	40歳以上	2年に1回	問診および乳房エックス線検査(マンモグラフィ)

※1 当分の間、上部消化管エックス線検査については40歳以上に実施も可

※2 当分の間、上部消化管エックス線検査については年1回実施も可

## けんぽお知らせ板